

長野県東御市湯の丸高原

高地トレーニング用プール施設基本構想



1. コンセプト

湯の丸から日の丸を

湯の丸から、「センターポールに日の丸を！」（日本水泳連盟のスローガン）

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、競泳選手の強化トレーニングに加えて、ジュニアの育成も可能な施設とし、湯の丸高原から世界で活躍するトップアスリートの輩出を応援します。

安全・安心で“やさしい”施設

- ・オリンピック及びパラリンピックのトップアスリート、及びコーチなど競技関係者のニーズを取り入れ、アスリートにやさしい施設にします。
- ・ユニバーサルデザインを取り入れ、アスリートの利用がない日は、障がい者、子ども、高齢者も使いやすい、やさしい施設にします。
- ・最先端の医・科学サポートが充実した、パフォーマンスを高めやすい施設にします。
- ・環境に配慮した、地球にやさしい施設にします。

持続可能な運営

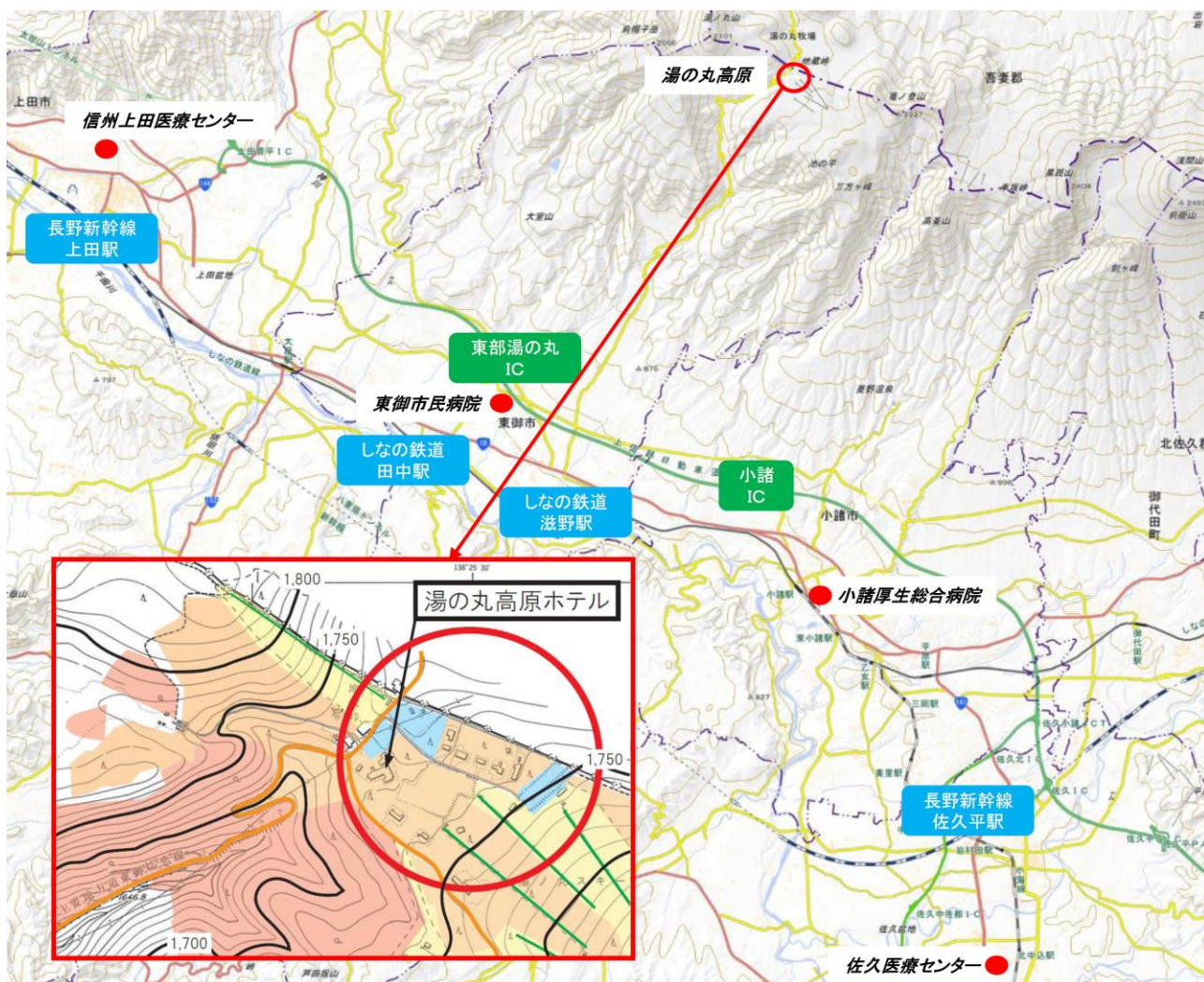
施設の建設及び運営においては、産官学民が連携し、持続可能な施設を目指します。

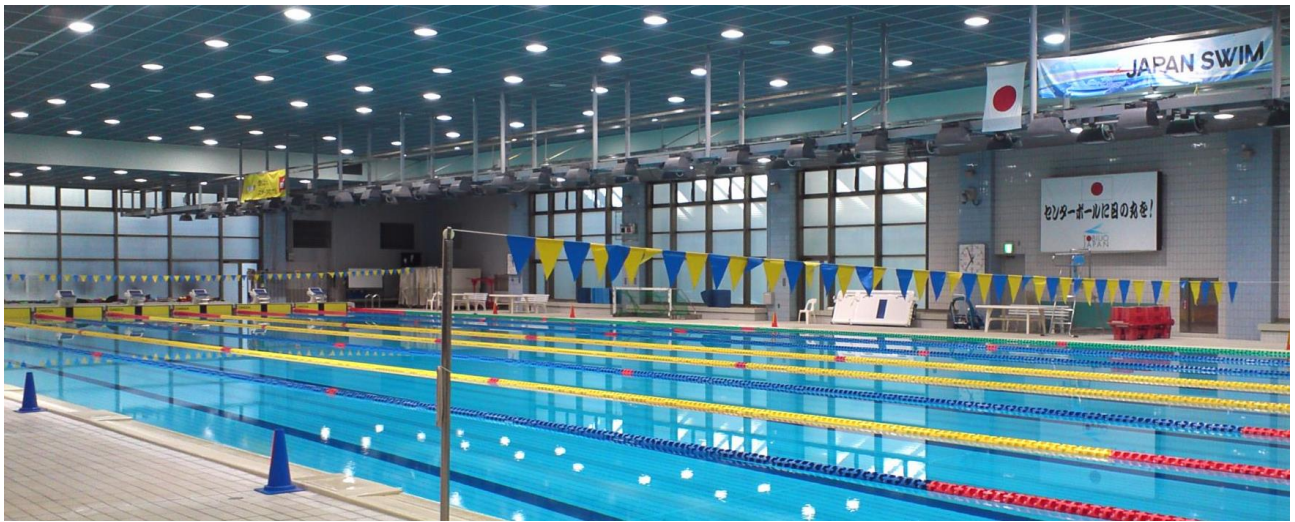
2. なぜ湯の丸高原なのか？

高地トレーニングは、心肺機能や持久性運動能力を高めて競技能力を向上させる効果があり、競泳選手には不可欠なトレーニングです。国内には競泳用の高地トレーニング施設がなく、日本競泳チームは、高コスト、体調管理の難しさなどのリスクを負ってアメリカ等で合宿しているのが現状で、国内での施設整備は日本水泳連盟の長年の悲願でした。

湯の丸高原は、国内随一の高地トレーニングに適した地域です。

- ・標高 1700m以上で高地トレーニングの条件を満たしており、合宿を受け入れるにあたって、宿泊施設（500 人）がすでに整備されたリゾート地であること。
- ・都心から車、もしくは新幹線と車の乗り継ぎのいずれでも約2時間半でアクセスできること。
- ・自然保護が求められる国立公園内にありながら、林野庁のレクリエーションの森の指定を受けており、住民の保健のための活用が求められている地域であること。
- ・長年、地域の健康づくりに協力を得てきた水泳競技関係者を通じて、日本水泳連盟等と連携してプール施設の誘致を目指す体制があること。





国立スポーツ科学センター競泳用プール

3. プール施設の整備構想

プールの建設は、湯の丸高原の標高 1750m 周辺を候補地として検討を進めます。

① 設計理念

・アスリートファースト

基本設計の段階からアスリート、コーチ、競技団体等のニーズを受け入れることで、細部に配慮が行き届いた施設・設備とし、アスリートのパフォーマンスを最大限に引き出すことを目指します。

・ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインを取り入れ、障がい者、子ども、高齢者等も安全・安心に利用できる施設を目指します。

② トレーニング環境

・最先端機器の導入

トレーニングルームには、最先端のトレーニング機器や測定機器等を揃え、アスリートのパフォーマンス向上を多方面から支えます。

・サポートセンターの設置

安全・安心な高地トレーニング合宿に取り組むためには、医・科学サポート体制などの事前の準備や宿泊施設との調整が不可欠です。施設内に設置するサポートセンターにより、円滑な合宿運営をサポートします。

・次世代人材育成

地域の指導者や選手への研修などにも応用できる設備を有することで、スポーツの普及振興全般に資する人材育成にも貢献します。

③ 施設の基本構成

・室内公認競泳プール（長水路 50m プール他）

・トレーニングルーム（ウェイトトレーニング 機器他）

・サポートセンター（メディカル・コンディショニング チェック、合宿所等サポート施設との連携）

・ミーティングルーム

4. 万全なサポート体制

① 医・科学サポートの充実

・医療救急体制

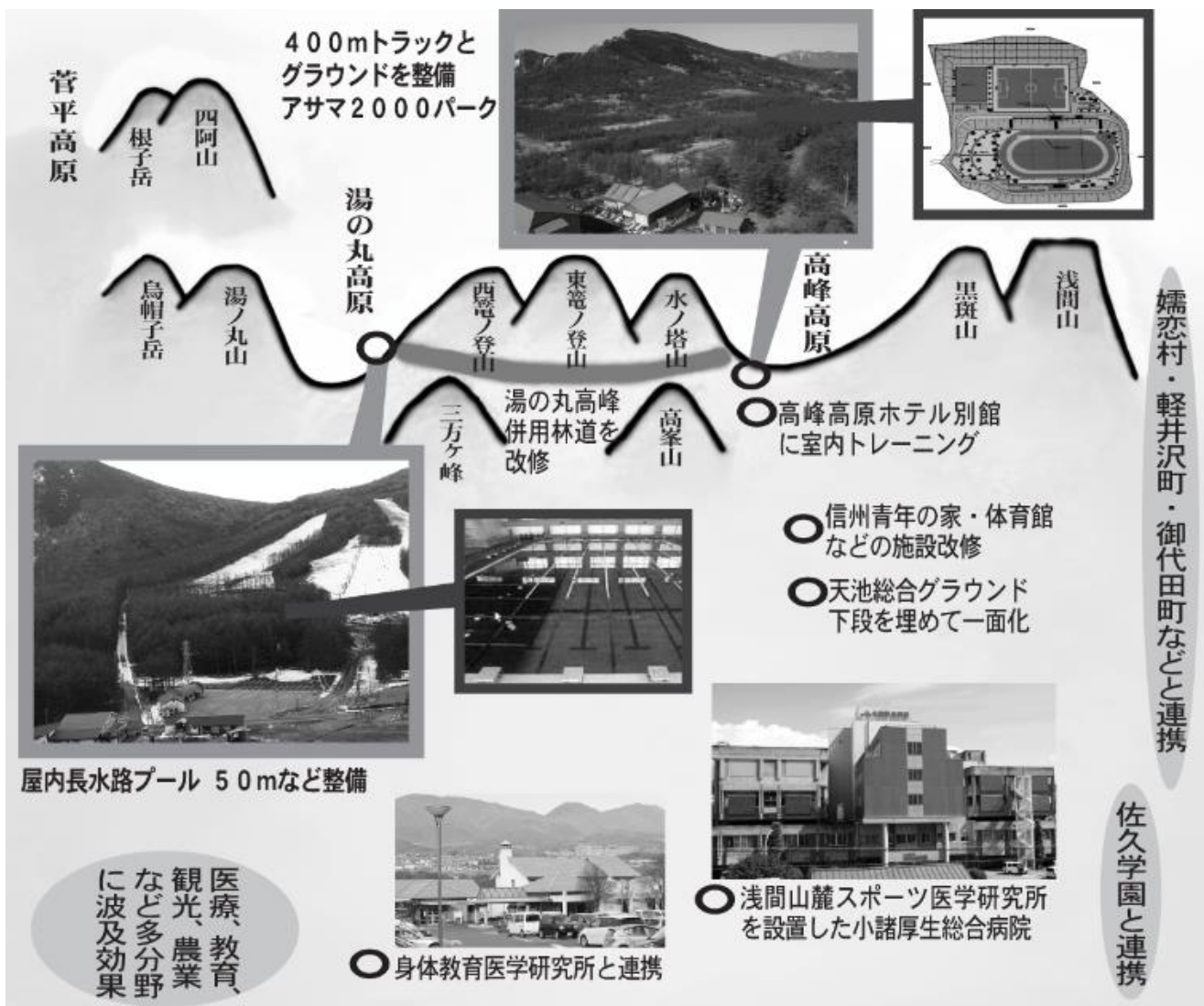
周辺には東御市民病院、小諸厚生総合病院、信州上田医療センター、佐久医療センター（ドクターヘリの配備）があり、トレーニング中の事故や病気等にも速やかな対応が可能です。

・安全管理

浅間山麓スポーツ医学研究所が、医療機関と連携を図り、アスリートの安全管理やスポーツ医学に関する研究を進めています。

・データ管理

公益財団法人身体教育医学研究所が、日本水泳連盟科学委員会、医事委員会等と連携・協力してアスリートの各種データを蓄積し分析することで、より効果的な高地トレーニングの手法をサポートします。



② 快適な生活空間の提供

周辺の観光及び宿泊事業者と連携し、充実したトレーニングを実施するために必要な、快適な生活空間を提供します。

・おいしい食事と水

宿泊施設では、合宿中の疲労回復や生活の質を支えるため、豊かな地元食材を使った魅力的な食事とおいしい水を提供します。

・選手・コーチ・競技役員同士の交流

多目的研修ホールを備えた施設もあり、ミーティングやチームが合同しての研修を実施するなど、選手同士の交流が可能です。

・選手の気分転換

土産物店などにより買い物ができるほか、東御市街地まで車で約 20 分での移動が可能のため、選手の気分転換が図れる利便性の高い地域です。

5. 地域への波及効果

① 地域の知名度向上

国内初の高地トレーニング用プール施設として、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた強化等に頻繁に利用されることで、東御市、湯の丸高原の知名度が飛躍的に向上します。

② トップアスリートと市民との交流

・未来のメダリスト発掘

オリンピック・パラリンピックに出場するトップレベルの選手と触れ合ったり、同じプールで練習することによって、地域の子どもたちに夢と希望を与えます。将来的には、その子どもたちの中からメダリストが誕生するかもしれません。

・地域のスポーツ振興、健康増進

トップアスリートの練習を間近に見ることで、多くの市民にとって水泳が身近なものとなり、競技水泳から健康水泳まで、幅広く水泳人口が増加します。

また、水泳に限定せず、本物に触れることで得られる刺激から、市民それぞれが自分に合ったスポーツを実施するなど、スポーツ振興全般、市民の健康増進にもつながります。

・スポーツ医・科学の地域還元による予防医学の充実

トップスポーツをサポートする最先端のスポーツ医・科学のノウハウが蓄積されることで、地域の予防医学の充実など、住民の健康増進にも寄与します。

③ スポーツツーリズム

ナショナルチームの強化拠点となることで知名度が向上し、国内外のトップチームが合宿に訪れます。合宿滞在に伴い、周辺地域での様々な消費が拡大します。

④ 観光産業全般の振興

国内唯一の高地トレーニング用プールとして、湯の丸高原の知名度が飛躍的に向上し、湯の丸高原を知っていただく機会が増えることにより、レンゲツツジ大群落や池の平湿原、湯の丸スキー場など、湯の丸高原の持つ様々な観光資源が改めて注目され、観光産業全般に好影響をもたらします。



東御市観光協会ホームページより許可を得て使用

6. 実現に向けて

① 計画の具体化

東御市湯の丸高原高地トレーニング施設検討委員会（※）を設置して、施設に必要な設備や機能の検討が始まりました。検討委員会では、検討の結果を「施設の基本計画」として取りまとめる予定です。また、「施設の基本計画」をもとに整備費用を算出します。

② 整備スキームの検討

現行の国等の補助金制度で、一自治体が主体となって施設を建設することは困難であることから、市では日本水泳連盟と連携し、施設の建設を国に要望しているところです。現時点では建設の主体は明確になっていませんが、今後プール施設を必要とする官民の幅広い機関により協議される中で、施設整備に関するスキーム（枠組み）が明らかになっていきます。

③ 建設の目標は2016年（平成28年）

このプールは、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピックに出場する競泳選手等の強化トレーニングのため、施設を使った十分な練習ができるよう、2016年のリオデジャネイロオリンピックの年までの完成を目指します。

※「東御市湯の丸高原高地トレーニング施設検討委員会」とは？

この検討委員会は、東御市湯の丸高原への高地トレーニング施設（競泳用プール）の誘致を実現するために、東御市から依頼を受けて、公益財団法人身体教育医学研究所が設置したものです。

委員には、この取り組みに関わる学識経験者、スポーツ振興に係る有識者、関係行政機関の関係者等7名の方々に就任していただきました。

委員会では、高地トレーニング施設の基本構想や計画、また、施設の整備や運営の方針などについて話し合わせ、実現に向けた検討が行われます。

武藤 芳照（むとう よしてる）　　＜委員長＞

学校法人日本体育大学日体大総合研究所所長。東京大学名誉教授。医学博士。ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ各オリンピック水泳チームドクターや、国際水泳連盟医事委員を務める。

篠原 邦彦（しのはら くにひこ）　　＜副委員長＞

長野県水泳連盟理事長。公益財団法人長野県体育協会評議員。日本水泳連盟評議員。

青木 剛（あおき つよし）

公益財団法人日本水泳連盟副会長。公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事。ソウル、バルセロナ、アトランタ、シドニー、アテネの各オリンピックにコーチ、監督として関わる。藍綬褒章を受章。

伊藤 学司（いとう がくじ）

長野県教育委員会教育長。公益財団法人長野県体育協会理事。

鈴木 大地（すずき だいち）

公益財団法人日本水泳連盟会長。ソウルオリンピック 100m 背泳ぎ金メダリスト。日本オリンピック委員会理事。世界オリンピック協会（WOA）理事。日本オリンピックズ協会会長。順天堂大学教授。

成田 真由美（なりた まゆみ）

パラリンピック競泳金メダリスト。アトランタ、シドニー、アテネ、北京と4大会連続パラリンピックに出場、計20個（金15、銀3、銅2）のメダルを獲得。13歳で横断性脊髄炎のため下半身麻痺。

花岡 利夫（はなおか としお）

東御市長。長野県市長会副会長。

発 行 平成 26 年 4 月
東御市 総務部 企画財政課
電話 : 0268-64-5893 E-mail : kikaku@city.tomi.nagano.jp